東京帝國大學經濟學會

經濟論叢

第五十二卷 第二號

昭和十六年二月

論叢

支那の田賦……經濟學博士 八木芳之助

ナチス勞働配置の原理……經濟學士 中川與之助

經營及企業の概念……經濟學士 大塚一朗

貨幣市場と資本市場……經濟學士 中谷實

時論

現代日本の危機と經濟學……經濟學博士 石川興二

研究

ジージエックと形式的同種性の問題 經濟學士 有田正三

損益及び損益計算の問題……經濟學士 尾上忠雄

說苑

明治前期における日本經濟學の胎生……經濟學博士 本庄榮治郎

附錄

彙報・外國雜誌論題

彙　報

經濟學部

○一月十日付を以て教授八木芳之助氏は經濟學部長に補せられ、教授谷口吉彦氏は依願經濟學部長を免せらる。同日教授本庄榮治郎氏は評議員を命ぜらる。一月廿三日付を以て教授汐見三郎氏は圖書館商議會委員を命ぜらる。

經濟學會

○十二月例會　十二月二十四日(火)午後六時より、樂友會館に於て開催され次の報告があつた。

一、買辨制度　　鈴木講師

中國に於ける特殊的機關である買辨の有する重要性について述べたる後買辨制度の沿革に附言して買辨一般の性質を概說した。次いで買辨に關する從來の說を慣習相違說及び受動貿易說として一括して內容の說明の後、それらの說のもつ歷史性・具體性の喪失といふ缺陷を指摘して之に對して經濟段階相違說を主張した。卽ち、買辨は單なる慣習の相違又は中國貿易の受動性の所產とのみ見るべきでなく、經濟段階の相違を基礎として半植民地的なる中國社會の特性の中に成立するものであり、買辨自體の內容は、列强資本主義の發展とこれに對する中國社會の發展との關聯に於て把握すべしと結論した。

二、アダム・スミスの自然的自由について　田杉助教授

アダム・スミスは周知の如く「自然的自由の體制」を以て理想的な政治經濟體制となした。自然的自由とは、自然によつて人間に賦與された自愛心の自由な發動、利己活動の自由である。然しスミスが利己活動の自由を是認したのは「正義の法」の範圍內に於てゞあつた。のみならず、彼がそれを是認したのは、それによつて分別(アルーデンス)等の德が實現されると考へたからである。更に、利己活動は「見えざる手」に導かれて社會の福祉を實現すると考へたからである。こゝに取上げるのは利己活動の自然的自由をめぐる最後の問題である。「見えざる手」とは何であるか。問題の中心をこゝに置いて、スミスの自由主義を基礎づけてゐる理神論的世界觀に及び、自由主義を超える道は、少くともスミスに關する限り、この根本の立場が眞實の意味に於て自覺的實踐的でないことを明瞭にしてかゝることによつて切開かれはしないかを問題にして見たのである。

當日の出席者—堀江、佐波、田杉、松井、田口、鈴木の諸先生。青盛、有田、井上、大橋、河野、辻、尤、和田の諸氏。

○會員動靜

同好會

○紀元二千六百年奉祝美術展鑑賞

十一月三日―十七日(前期洋畫彫塑)十二月三日―十七日(後期日本畫、工藝品)前後二回鑑賞する事とし、入場希望者六〇〇名に達した。

○高田先生の特別講演

十一月十八、十九、二十一日の三日間毎夜六時より八時まで第十教室に於て「ケインズ一般理論」に就て論講せらる、聽講學生二〇〇名に達し甚だ盛會であつた。

○奈良見學

十一月二十三日(土)秋色漸く濃き古都奈良に紅葉を訪ねて一日を愉しく過した。參加者四七名

○歌舞伎顔見世觀賞會

十二月十三、十七、十九日の三回に亙り觀賞を行ふ。參加者一五〇名

○十五年度卒業生豫餞會

一月十八日(土)午後六時より樂友會館に於て開催、石川、八木、堀江、德永の各先生より懇篤なる送別の辭あり、卒業生總代の挨拶ありて一同歡談の後、八時過ぎ散會。出席者石川先生外二十二名